

会員名簿発行へのご協力お願い

同窓会会長 西村貞一(45回)



会員の皆様には、同窓会活動にご理解ご協力くださり誠にありがとうございます。

かねてよりお知らせいたしております通り、2017年の甲陽学院創立100周年を記念して、会員名簿を発行することになりました。今回の発行は2003年以来となりますが、個人情報の保護に細心の注意を払い進めてまいりますので、皆様にはご理解いただきますようお願いいたします。また、皆様のお力なくしては成就できない事業ですので、名簿記載事項調査と広告・賛助金募集においてご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

名簿記載事項調査に関して、すでに理事をはじめとする編集委員による予備調査を終え、その結果に基づき2016年4月上旬までに「名簿記載事項調査資料」がお手元に届く予定となっておりますので、「調査はがき」のご返送をお願いいたします。回答内容に従い、会員名簿を作成いたしますので、記載内容の正確性を期するため、ご返送のほどよろしくお願いいたします。なお、このご回答の際、名簿購入の申し込みが可能となっておりますので申し添えます。

広告・賛助金募集に関して、今後各種方法によりお願いをしておりますが、ぜひともご協力をお願いいたします。法人、団体、個人事業主だけではなく、学年やクラブなど同窓生グループでの広告出稿を歓迎いたしております。

今回の名簿発行に関しては、名簿記載事項調査、広告・賛助金募集を同窓会名簿発行専門業者である株式会社サルト(姫路市 <http://www.salat.co.jp/>)に委託しておりますので、ご承知おき下されば幸いです。

会員の皆様のご協力を得て、この甲陽学院同窓会会員名簿発行事業を成功させたいと念じておりますので何卒よろしくお願いいたします。

発行所

〒662-0096 西宮市角石町3-138

甲陽学院同窓会

発行人 西村貞一

印刷所

株式会社小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL: (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・金 10:00~16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail:

fvpp1650@mb.infoweb.ne.jp

同窓会ホームページ

<http://www.koyogakuin-oba.jp>

予告

今年の会員総会は8月27日(土)です!

平成28年8月27日(土)13時~16時30分 於:ノホテル甲子園

☆講師は発展途上国に橋を架ける国際貢献事業に多く携わってこられたOriental Consultants Global, Senior Technical Adviserの坂井逸朗さん(47回)テーマは「ナイルに架ける橋~ウガンダから見たアフリカと日本~」

☆総合司会は、今年もテレビで活躍中の高橋知裕さんです。

☆今回の主役となるホームカミング学年は、47回生(卒業50年)、62回生(卒業35年)、72回生(卒業25年)です。ホームカミング学年の方はふるってご参加ください!

☆現在会員総会運営委員会にて鋭意準備企画中。詳細は次号「甲陽だより」(7月下旬発行予定)にて発表します。

平成28年4月中旬リニューアルオープン予定



白鹿クラシックス
Hakushika Classics

西宮市精華町(礼拝所・臨港線交差点)
■定休日/火曜日

レストラン&カフェ

AM11:00~PM10:00

(ラストオーダー PM9:00)

明治時代の酒蔵を

シック&カジュアルな和空間に。

0798-35-0001

ミュージアムショップ

AM10:00~PM7:00

歳元ならではの、

お酒にまつわるアイテムが大充実。

0798-35-0286

酒ミュージアム

白鹿記念酒造博物館

AM10:00~PM5:00

(入館は4時30分まで)

日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝承

0798-33-0008

会 務 報 告

平成 27 年 11 月 30 日に行われました同窓会理事会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

1 会報「甲陽だより」

第 92 号を平成 27 年 7 月 24 日付で発行しました。次号第 93 号の原稿は 1 月 10 日締切、3 月中頃発行予定とのことでした。

2 夏の会員総会

平成 27 年 8 月 29 日(土)の午後 1 時から午後 4 時半までノボテル甲子園におきまして、恒例の夏の会員総会を挙行了しました。

第 1 部は 1 階「鳴尾の間」にて式典と講演会。講師は酒鬼薔薇事件で付添人団長を務めた野口善國弁護士(46 回)で、演題は「気づいていますか 子どもの SOS」でした。歌を忘れたカナリヤの歌詞が「非行少年」と呼ばれる子どもたちの気持ちを表しているというお話から始まり、具体的な事例を挙げて、子どもが安心して暮らせる社会を目指すために大人が考えなければならないことをお話いただきました。

第 2 部は、会場を 2 階「甲陽の間」に移して懇親会。1965 年から 2008 年まで母校で教鞭をとられた静利一郎先生に 4 人のお仲間を加えた「フルハウス」のカントリーミュージックを楽しみながらのパーティーとなりました。

当日の参加者は 202 名でした。とくにホームカミング学年の 46 回生が多数参加してくださいました。

3 甲陽ファンド奨学金

本格的にファンド委員会が発足してから 11 年目、在校

生への支給を始めてから 10 年目を迎えます。

募金活動は平成 17 年度から開始し、皆様のご協力によりこれまで 10 年半で約 7362 万円の醸金が集まりました。平成 26 年度は大口の醸金があったため総額は約 1350 万円でしたが、平成 27 年度前期(4 月から 9 月まで)で約 156 万円となっており、やや募金活動が下火になってきていることが懸念されます。

在校生への給付実績は、平成 18 年度から平成 27 年度まで延べ 75 名に、年間 20 万円を支給してきました。

現在のファンド残高は平成 27 年 9 月末で約 5829 万円となっています。

4 第 3 回会員交流会

同窓会活動の活性化のため夏の会員総会以外にも会員相互の交流と親睦を図るようなイベントを企画してはどうかとの意図で始まった会員交流会ですが、その第 3 回が平成 27 年 10 月 25 日に行われました。(P.10 参照)

5 同窓会会員名簿の発行について

母校創立百周年(2017 年)記念事業の一環として会員名簿の発行準備が進められています。この度は理事を中心とした編集委員に「個人情報保護に関する法律」を順守した名簿編集の基本方針および名簿発行までのスケジュールを伝え、予備調査と賛助広告掲載の呼びかけの依頼がありました。

終身会費納付額設定表(平成 28 年 3 月 31 日まで)

96 回～90 回	30,000 円	76 回	37,000 円	62 回	23,000 円
89 回	50,000 円	75 回	36,000 円	61 回	22,000 円
88 回	49,000 円	74 回	35,000 円	60 回	21,000 円
87 回	48,000 円	73 回	34,000 円	59 回	20,000 円
86 回	47,000 円	72 回	33,000 円	58 回	19,000 円
85 回	46,000 円	71 回	32,000 円	57 回	18,000 円
84 回	45,000 円	70 回	31,000 円	56 回	17,000 円
83 回	44,000 円	69 回	30,000 円	55 回	16,000 円
82 回	43,000 円	68 回	29,000 円	54 回	15,000 円
81 回	42,000 円	67 回	28,000 円	53 回	14,000 円
80 回	41,000 円	66 回	27,000 円	52 回	13,000 円
79 回	40,000 円	65 回	26,000 円	51 回	12,000 円
78 回	39,000 円	64 回	25,000 円	50 回	11,000 円
77 回	38,000 円	63 回	24,000 円	49 回～	10,000 円

終身会費納付額設定表(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日まで)

97 回～91 回	30,000 円	77 回	37,000 円	63 回	23,000 円
90 回	50,000 円	76 回	36,000 円	62 回	22,000 円
89 回	49,000 円	75 回	35,000 円	61 回	21,000 円
88 回	48,000 円	74 回	34,000 円	60 回	20,000 円
87 回	47,000 円	73 回	33,000 円	59 回	19,000 円
86 回	46,000 円	72 回	32,000 円	58 回	18,000 円
85 回	45,000 円	71 回	31,000 円	57 回	17,000 円
84 回	44,000 円	70 回	30,000 円	56 回	16,000 円
83 回	43,000 円	69 回	29,000 円	55 回	15,000 円
82 回	42,000 円	68 回	28,000 円	54 回	14,000 円
81 回	41,000 円	67 回	27,000 円	53 回	13,000 円
80 回	40,000 円	66 回	26,000 円	52 回	12,000 円
79 回	39,000 円	65 回	25,000 円	51 回	11,000 円
78 回	38,000 円	64 回	24,000 円	50 回～	10,000 円

甲陽学院同窓会奨学金ファンド醸金者一覧

平成27年6月1日以降12月31日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(平成27年5月31日以前に醸金された方は73号～92号に掲載しております。)

19回 石井 賢治	40回 長谷川啓治	51回 神戸 朋之	59回 柴田 良平
19回 山崎 昇	41回 橋本 久	51回 近藤 友之	59回 島本 佳憲
22回 酒井 新介	43回 平井 真一	51回 高尾 浩平	60回 阿多 博文
27回 光野 昭	43回 本庄 義信	51回 横田 真彰	61回 岸 清彦
33回 二宮 一明	45回 小西省三郎	52回 武田信一郎	62回 長宅 芳男
34回 江隈 一夫	45回 小林 智夫	52回 土居 章展	63回 森 啓行
35回 内田 眞朗	45回 田中健一郎	52回 野床 種保	64回 杉本 佑一
35回 尾山 啓二	46回 近藤 宏	52回 飛田 圭吾	64回 前田 陽司
36回 福田 達	46回 杉山 英夫	55回 浜川 一郎	66回 藤原 知哉
38回 藤原 康雄	49回 井上 伸	56回 大野 順弘	69回 大津 雅亮
38回 吉本 文彦	49回 中塚 一郎	56回 佐野 隆夫	74回 徳岡 俊治
38回 三木 則夫	49回 長島 久明	56回 竹内 利明	80回 立野 靖人
38回 中村 誠	49回 山田 哲也	57回 大野 恭太	81回 山脇 敬博
39回 天知 輝夫	49回 横山 司	57回 白尾 誠二	88回 西條 朋哉
39回 井澤 英二	50回 岩朝 央	57回 新屋 久幸	89回 黒木 俊光
39回 加輪上敏彦	51回 内田 邦彦	57回 中村 卓司	

毎号毎号同じようなお願いばかりで恐縮ですが、今回も奨学金ファンドへのご協力をお願い申し上げます。

このファンドは、平成17年度から募金活動を始め、翌平成18年度から母校の在校生への奨学金支給を始めました。奨学生は、定期採用6名(各学年1名)と緊急採用(中学2名まで、高校2名まで)で、その選考は母校に一任しております。平成27年度は6名の在校生に奨学金(1人年間20万円)を支給いたしました。また、平成18年度からでは延べ75名の生徒が本奨学金を受給しました。

昨今の社会・経済情勢は、甲陽の生徒・保護者にとっても決して無縁ではなく、会社の倒産、リストラ、離婚など、母校の後輩たちを取り巻く環境は、良好とばかりは言えません。本奨学金制度は、間違いなく母校と在校生にとって有意義なものとなっています。

この奨学金制度を永続させるためには、ファンド資金の充実が必要なことは申すまでもありません。各回生におかれましては募金活動に取り組んでおられると存じますが、回生別の募金件数の表によりますと、この1年間で特に積極的に取り組まれた回生もあるようです。感謝申し上げます。夏の会員総会のホームカミング学年を中心に今後とも募金活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

醸金方法は下の通りです。一口1万円から何口でも結構です。また、一度ならず何度も醸金下さる方も大勢いらっしゃいます。ありがとうございます。なお、税法上の寄付控除の対象にはなりません。

皆様ご存じのように、母校甲陽学院には、保護者・卒業生からの寄付を募らないという誇り高い方針があります。そんな中で、奨学金ファンドは、同窓生として母校に貢献できる数少ない機会の一つです。皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

【醸金方法】

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
 - (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
- (2)の場合、振込人の卒業回が分かるようにお願いします。

学校だより



高等学校同窓生講演会

「チャンネルはそのままで」

毎日放送 伊佐治整氏 (75 回)

本年度の高校の同窓生講演会は、講師に毎日放送報道局ニュースセンター記者の伊佐治整氏(75回)をお迎えして、11月27日(金)放課後、視聴覚教室で開催されました。

伊佐治氏は1999年に毎日放送入社、現在は「ちちんぷいぷい」内の報道担当コーナープロデューサーをなさっています。

伊佐治氏は1988年甲陽学院中学校に入学されましたが、入学前の1987年の朝日新聞阪神支局襲撃事件に大きな衝撃を受け、社会を動かすペンの力にあこがれて報道記者を志すようになったそうです。また、甲陽学院在籍中の今西先生の授業は、社会の仕組みを知りたいと思った原点である、と語っておられました。

報道記者の仕事について、在阪局の記者は人数も少なく、全国紙やキー局のように細かく担当がわかれておらず、何でも屋であることが求められるそうです。氏の最初の仕事は大阪府警担当で、朝駆け、署回り、夜回りの繰り返してでしたが、他局や新聞に負けたくないの一心で大変な毎日を乗り越えられたそうです。中でも被疑者や被害者の写真探しは最も気が進まない仕事の一つでしたが、「顔」がある報道のほうが視聴者に伝わりやすいのも事実で、複雑な気持ちで写真探しをされていたそうです。

2008年に大阪府庁の担当となり、当時の橋下知事の取材では、中途半端な知識で話を聞くと、相手にされないか、逆に厳しく質問を返されたりで、何とか知事のペースに巻き込まれないように奮闘されていたそうです。橋下氏はいずれ政界に戻ってくるのでは、という見解も披露されていました。

現在は、番組アナウンサーの取材に関わる調整が主な仕事だそうです。毎朝出勤すると最初にされるのは視聴率のチェックで、一喜一憂の日々を送っており、この講演のタイトル「チャンネルはそのままで」をいかに実現するかをいつも念頭に置かれているそうです。直接お金に関わらない仕事がしたいと記者の道を選んだつもりだったが、民放である以上視聴率やスポンサーの意向からは逃れられない、と語っておられました。

仕事柄オフレコの内容もいくつかあり、現役の高校生にとっては大変興味深いお話で、予定の1時間があっという間に過ぎてしまいました。最後に、甲陽学院は文系の志望者が少ない学校だが、この機会に報道やマスコミに少しでも興味を持ってもらえたら、と締めくくられました。

(谷 晋一郎 記)



中学校同窓生講演会

ことばのかたち

東京大学大学院人文社会系研究科准教授

渡辺 明氏 (64 回)

2015年11月19日(木)の6時間に同窓生講演会が開催されました。本年度の講師渡辺氏は1983年に高等学校を卒業し、東京大学文学部、同大学院人文科学研究科を経てマサチューセッツ工科大学大学院言語・哲学科博士課程を修了、現在は東京大学大学院人文社会系研究科准教授としてご活躍なさっています。

どうして「ことば」を研究することになったのかを氏は、まず話し始めました。野球部だった中学時代から話を起こされ、中学生のころは数学が好きだったこと、それが成長するにしたがって徐々に言語に惹かれていった様子を具体的にイメージしやすい逸話を重ねながら、語って下さいました。大学に入ってから英語以外の言語との比較におもしろさを感じるようになり、言語一般への興味から理論言語学を研究していこうと決意したとのことでした。また研究者としての米国での生活も興味深いものでした。

お話は徐々に理論言語学とはどのようなものかという研究内容の説明へと移っていきました。それは語と語との組み合わせやその語順の制約、そのことによって生じる意味上の違和感の原因を探るというものでした。氏はこれを「変な表現を探してきていい表現と比べ、変の原因を探る」という平易な言葉で表現して下さいました。またこの研究内容の具体的な例として「あのビルは30メートルである」という文と「あのビルは30メートルある」という文の比較を氏は持ち出されました。皆さんはこの2文に意味的な違いを感じられますか。両方の文に「たった」という語を補ったとき後者(「あのビルはたった30メートルある」)にだけ違和感を感じるはず。それはなぜかということを探るのが研究ですと言われたときのいかにも楽しそうな様子が印象的でした。

質疑応答でも「正しい意味が違う意味で使われていく言葉の変化をどう感じるか?」「どのようなときに研究のやりがいを感じるのか?」という中学生の質問にも親身で丁寧なお答えを下さり講演は終了しました。

自分の興味を追究することは楽しいけれどそれを職業していくことは、楽しいばかりでは済まされないことは中学生でも気づいています。にもかかわらずどんな場面でも自分の研究をいかにも楽しそうに語られる氏のご様子にきっと生徒も何かを感じたはず。彼ら生徒に職業や将来を考える時の一助となっていくものと思えました。

(嶋吉由喬 記)



学校だより



学校だより



高等学校進路講演会

ある甲陽生が地質学者になるまでの20年の話

東京大学大気海洋研究所助教

山口 飛鳥氏 (81 回)

昨年 6 月 26 日 (金) の放課後、本校視聴覚教室において、恒例の進路講演会がおこなわれました。講演は、本校第 81 回生の山口飛鳥氏です。氏は現在東京大学助教として、地震の研究の最前線におられますが、まだまだ学生のようにお若く、かつて甲陽生のときから、落語を熱心に学ばれ、音展のときなどに、囃家として活躍されていた光景がそのまま演壇に上がってきたという思いで、聴いていたのは筆者だけではないでしょう。



さて、氏は甲陽卒業後、東大に入学し、理学部地学科にすすんだものの、特に明確な目標はなかったそうです。指導教官に言われるがままに、地質学の研究の現場におもむき、スケッチなどをしたり、南海トラフの音波探査だのと、こなしていったものの、“研究”という言葉と“勉強”という言葉の差がよくわからなかったということでした。氏が言われるには、勉強とは知識の吸収で、これは無論相当必要なわけですが、勉強ができて研究ができない人も、とのことです。それは、研究とは知識の生産であるからだ、と今は述べられます。卒論の研究時、プレートの沈み込みの構造を調べているときにみ

た露頭には圧倒され、それが研究のモチベーションになっているとのことでした。

そのまま、博士課程に上がり、アリューシャン列島にある島の地質調査などにかかわっていったそうですが、雨でテントを出られないときは、徒然草を読んだりして、のんびりと楽しい生活であったということです。その後、D2 になってから、地震探査のための巨大な船『ちきゅう』に長期にわたって乗船する機会を得、研究上の様々な体験をし、その成果がやっと見えてきたことで、研究者として進んでいく自信のようなものが得られたとのこと。なお、この『ちきゅう』号では、色々な国の研究者と生活を共にし、食事もおいしくて、わくわくするような体験であったとのこと。

さて、氏は高校生のとき、サイエンスキャンプで関東の地質研究に参加したのが、実際の地学との出会いであったとのことですが、その前に中学一年のときに阪神大震災を経験し、プレートの移動などの地学の分野に関心を持ったそうです。そして、本屋で立ち読みからついに、ある活断層に関する本の執筆者に直接手紙を書いたとのこと。その筆者も返事を下さったことが、高校のとき、サイエンスキャンプに参加するきっかけとなったと述べておられます。

さて、筆者は、山口氏の紹介を書きながらも、現在の甲陽生の諸君にどのように眼に映ったのか、ということにも、関心がありますが、どうでしょうか。ちなみに、講演会の当日は、結構大勢の生徒諸君が参加していたようです。講演後の質問時も多くの諸君が手を挙げ、盛会に終わったように思われます。

(佐藤秀明 記)

中学校講堂 建て替えへ

前回の甲陽だよりでもご紹介しましたが、母校甲陽学院が来年 2017 年に創立百周年を迎えるのを記念して中学校の講堂を建て替えることになりました。入学式、卒業式をはじめ、音楽会や講演会など様々な学校行事で使われ、長く親しまれてきましたが、いよいよ本年 4 月から工事が始まり、来年の春には新しく生まれ変わります。右記の日程で見納め会を実施いたしますので是非ご来校下さい。

中学校講堂見納め会

日時：2016 年 4 月 10 日 (日)

午前 10 時～午後 2 時

ご自由にご覧いただけるようにしたいと思いますので、ご予約等は不要です。



学校だより

リレーエッセー

異質なもののインターフェース

上西 啓介 (63回)



私が高校を卒業したのはもう30年以上前ですが、今なお同窓会を通じて多くの同窓生の皆さんにお世話になっています。また息子も最近まで甲陽で6年間お世話になり、甲陽から頂いたご恩は計り知れません。

私は明るく元気な子供ではあったと思いますが、自発性・創造性はイマイチで、

高校や大学の勉強も、与えられた課題を、それなりに、こなすという程度のものでした。そんな私が、ようやく自発的に物事を考え、行動するようになったきっかけは、大学4年生での卒業研究だと思います。私は工学部金属系学科で非平衡材料という、普通の方法では出現しにくい状態(正確な表現ではありませんがご容赦を・・・)の合金を創る研究室に所属しました。そんな不安定なものが役に立つのか?と思われるかもしれませんが、磁気ヘッドのアモルファス、飛行機のジュラルミンから、鉄鋼材料に至るまで、幅広く実用化されています。卒業研究では準結晶という、当時発見されて間もない(2011年に発見者はノーベル賞を受賞)材料の研究を経験し、未知の新しいことにチャレンジすることの喜びを感じました。また、自分が見出した結果を発表する学会や論文では、優れた成果に対しては、研究のキャリアや身分に関係なくフェアに評価されることに心地良さを感じ、研究を深める道を志しました。

私の修士以降の研究は、メカニカルアロイング(機械的合金化)による非平衡材料の創成に関してのものでした。合金を創る場合、金属を溶かして、混ぜ合わせて固めるのが一般的ですが、メカニカルアロイングは日本語訳の通り、合金の元となる元素の金属粉末を粉碎・混合を繰り返すことにより、金属を溶かすことなく合金を創ることができるというものです。合金とは2種類以上の元素を混ぜ合わせたものですが、面白いもので人間と同様に、元素にも相性があります。燃え上がるぐらい激しく反応する組み合わせもあれば、鉄と銀のように溶けた状態でも水と油のように混ざり合わない組み合わせもあります。異種の金属を繰り返し粉碎・混合するということは、いろいろな相性を持った異種金属同士の界面(インターフェース)を人工的にたくさん作り出していることになります。非平衡材料を創るには、高温や高圧にするなど、とにかく高いエネルギーを与えることにより、材料を高いエネルギー状態にすることが基本です。一見単純にも見える粉碎と混合を繰り返すという作業も、多くの異種材料の界面を作り出すことにより、材料を高エネルギー状態にすることができるのです。後の東北大学金属材料研究所の所長の先生が、この結果を評して「Low Technology, High Philosophy だね!」とおっしゃ

られたのですが、これは私の考え方の大きな根幹となっています。つまり、方法が高度か否かではなく、考え方が高度か否かが重要だということでしょうか。

博士課程在学中に大阪大学工学部で教員の職に就くことができ、そこでは溶接・接合の研究を主に行うことになりました。今度は合金をつなぎ合せて、製品や構造物にするプロセスで、接合する材料の組み合わせは無限に考えられるので興味深いものでした。一方で実用化に近い技術なので、ただくっつけばよいというものではなく、作り方、使われ方をも理解する必要がある、そのために産業界の研究開発者とも数多く議論をする機会に恵まれ、大学の世界しかしなかった私にとっては大変貴重な体験でした。また、1996年には1年間、トロント大学の先生のもとで研究をする機会を得ました。トロントは世界的にも多文化共生が進んだ町で、大学でもカナダ人だけでなく、中国、メキシコ、インド、イラン、スリランカ人などの多様な国からの研究者と交流することができました。

2004年からは工学研究科大学院にビジネスエンジニアリング専攻が新たに設立され、そこで教育研究に携わっています。残念なことに、薄型テレビや半導体に代表されるように「技術で勝り、事業で負ける日本」という言葉を聞くことが多くなりました。釈迦に説法ですが、新しい価値提供には、技術開発は必要不可欠ですが、それを事業として成功させるには技術だけで解決できません。そこで大学では、これまで同様に技術を深める研究を行いつつ、プラスアルファで経済や経営の基礎を学んだり、リーダーシップなどの実践的な演習を行っていました。そんな大それたことを私は教育できないのですが、学内では経済や法学研究科などの先生方、学外からも甲陽の先輩など、多くの実務経験者の方からの協力を得て、学生と一緒に自分も日々、学ばせて頂いています。学生は工学部出身が多いですが、専門はバラバラで、また経済や文学部出身者もいます。まさに、教員も学生も異質な者が混ざり合い、高いモチベーション(エネルギー)を持って、新しい価値(Philosophy)の創造に向けて切磋琢磨しています。まだ、10年そこそこの組織ですが、卒業生は世界の津々浦々に飛び出し、活躍しています。

同窓会などで甲陽の同窓生も多様な分野でご活躍をされていることを知りました。大学は入試など様々な改革案で世間をお騒がせしていますが、より社会に貢献できる大学、より社会に貢献できる人材を輩出する大学となるため、同窓生の皆様にもぜひご協力を頂きたいと思えます。今後ともご指導賜りますよう、よろしくお願い致します。

上西啓介(うえにしけいすけ)

甲陽学院、京都大学工学部、同大学院工学研究科を経て、大阪大学大学院工学研究科教授。工学博士。

会員だより

34・35・36回(新制1期・2期・3期) 高校卒業60周年合同同窓会(最終回)開催

2013 年から連続 3 年開催の最終会は今回ノボテル甲子園から尼崎都ホテルニューアルカイクに場所を移し 10 月 24 日午後 12 時 30 分より開催されました。戦後学制改革に依る 6・3・3 制の 1 期・2 期・3 期が揃う事により初めて新制中学校として型が整ったのです。その意味からもこの 3 期は学年を超えたつき合いが若い頃からあった様に思います。

今回は 36 回幹事の西村善明さんより 34 回 17 名・35 回 17 名・36 回 10 名合計 44 名出席の報告、次いで残念乍ら既に鬼籍に入られた全ての先輩・同輩・後輩諸氏への 1 分間の黙祷を捧げました。そして本同窓会を発案実施の采配をとられた 35 回尾山啓二さんよりの挨拶、更に 34 回の横内昭さんの音頭で乾杯と続けました。特に横内昭さんは現役時代の商社勤務での諸外国での駐在等の経験から各国の乾杯用語を披露された後日本語で出席者全員の健康長寿を祈念し一同で高らかに乾杯をしました。

そして料理が運ばれ自由歓談へと入りました。全員年に似合わず生き生きと濃密なる談笑傘寿前後の後期高齢者の同窓会はいやが上にも盛り上がりしました。高校時代の思い出、最近の健康のこと暮らしのこと話はつきません。

午後 2 時 30 分今回卒業 60 年となる 36 回出席者 10 名が壇上に上がり舟越辰緒さん、中川博二さん等が先輩諸氏に敬意を込めてご挨拶され、続いて 34 回奈良節雄さんのタクトで会出席声を張り上げ甲陽学院高校校歌を懐かしさに浸りつつ斉唱しました。正にその時みんなの心に青春の血が燃えていた様に感じました。新制 1 期・2 期・3 期の新甲陽学院で教育を受けた幸せ感を抱きつつ午後 3 時閉宴の時間を迎えました。なお少額ですが会費残額を甲陽ファンに醸金させて頂く事としました。

また第 1 回のこの合同同窓会記事が「甲陽だより」88 号(7 月 25 日号)に掲載されていますので併せてご覧頂くと幸甚です。

(36 回・杉野修三・西村善明)

出席者氏名(敬称略)

34 回：○奈良節雄・宮内傳郎・戸崎博視・○水野寛・横内昭・中村佳史・寺岡久雄・江隅一夫・三枝熙和・藤井三郎・辻野純徳・小島安正・前田英雄・森本登・黒住始・合地功・阿部博

35 回：○沢井陽・西田元次・荒木安正・中村貞三・多木敏彦・山崎一夫・江口建之・柴田隆・●尾山啓二・嘉部嘉隆・北村彬・小林一章・神保金孝・○三木正之・太田佐喜夫・坪井弘光・廣本健

36 回：杉野修三・◎矢田忠・中川博二・光永三郎・大野進・但井浩二・岡居真恭・稲松登・舟越辰緒・◎西村善明 注) ◎代表幹事・○幹事・●今回幹事



38回 喜寿同窓会

2015 年 11 月 12 日(木)第 38 回生喜寿同窓会が西宮神社社会館(えびす神社)において開催されました。参加者総員 40 名に中島博先生のご来臨をえて、喜寿を自祝する同窓会となりました。当日は小春日和に恵まれて、丹塗りの鮮やかな社殿で揃って御祓いをうけ、福知保長常任幹事が代表で玉串を奉獻、そのあと御神酒でお互いの長寿を祝いました。下記の社殿前の記念写真撮影は堀口知義君の労によるものです。(遅刻者の受付のため会計担当の平野雅士君、水垣健君が撮影はずれ)この行事は江壽健一郎君が神社側に特別に依頼して実現したものでした。第 2 部は神社社会館の二階広間が懇談会場。会場外には中高時代の集合写真、恩師の群像写真(A3 版)が堀口君の提供で展示され、一気に 65 年前に回帰しました。会場内には作品展が設けられ、洋画「香榎園浜・朝の散歩」岩城耕一郎・日本画「紅白南天」江壽健一郎・抽象画「位相 1565」羽田英彦・写真「紅の芭蕉庵」堀口知義・句集「滯標」有田健一の 5 名の出展がありました。開会前にこの 2 年逝去された 4 氏、田中利廣、樋口邦和、逸見眞二、平岡義雄を含む 40 名の物故者へ黙祷を捧げました。

開会挨拶は福知君、続いて中島博先生より祝辞「これからの余生、図太く生きよ」と励ましのお言葉をいただきました。近畿圏外より遠路駆けつけた 12 名の皆さんを代表して 3 名の方の発声で乾杯(日本酒白鹿)、時川和夫君の謡「高砂」の流れるなか宴は始まりました。6 卓のテーブルにはそれぞれ名前入り喜寿祝い箸袋(尾本一毅君作)と資料封筒「名簿・みんなの近況報告・中高校歌歌詞・甲陽学院史や過去の同窓会資料など収録の DVD(柴田始宏君編)・干支サルの色紙コピー(江壽君作)等々」が配布されました。さらに紅白のワイン(時川君醸造)芋焼酎(有田)の差し入れもあり、青春時代の懐かしい曲の BGM(佐藤康人君編)が流れ、和やかな懐旧の懇談会となりました。そのうちに 10 名近い有志の思い出話のスピーチがあり、極みには中高校歌斉唱(リードボーカル松林輝芳君・福知君)と盛り上がりしました。最後に次回以降の 38 回生同窓会が懇談会として毎年開催される提案が賛同され、幹事一同登壇挨拶、濱根恒夫君の音頭で万歳を三唱し、多くの方のご協力を得て無事終了しました。(記 幹事有田)



43回 東西合同同期会を金沢で開催

“朋あり遠方より来る、亦た楽しからずや”

中高時代をともに学び人生を語り合った同級生と旧交を温めることは、歳を重ねるごとに無上の喜びとなっています。

昭和 37 年卒の 43 回生は、東京では「枯山水会」を、関西では「大阪 43 会」を結成し、それぞれ活動の場をもっていますが、東西合同の会は 8 年ぶり。そして来年には全員が 72 歳、中学入学 60 年を迎えます。

これを機に、昔に戻って思い切り若返ろう！と、去る 10 月 21 日・22 日の両日、北陸新幹線が開通し賑わう金沢に総勢 25 名が参集しました。会場は当地を代表する料亭の一つ「山乃尾」。庭園に囲まれた離れです。

霜髪はたちまち丸坊主頭にタイムスリップ。育んだ友情は年齢を超えて不変であることを実感しつつ、時間が経つのも忘れて話が弾みました。最後に甲陽学院のうた“…大地のほてり、われらをつつむ…”を熱唱。

一日目は市内観光。二日目は、赤黄緑に彩られ清々しい大気に満ちた大自然の山々、これを縫うように走る白山白川郷ホワイトロードをバスで周遊。

人はなにか大きな存在に生かされている仕合せを覚えながら「また会おう、元気で…」と、再会を約して新たな一歩を踏み出しました。

出席者

今福宏司	大針洋男	岡本弘之	川口 昭
衣笠隆之	久保猛志	鯉谷信夫	後藤多聞
小林稔明	鈴木重利	中野昭一	中野正樹
長野恒己	野木 尚	平井真一	福山慎一
藤本勝司	本庄義信	前田幸介	松村矩雄
南 聡	遊川健三	吉藤賢了	吉村 進
渡邊 功			

(幹事 福山、小林)



48回 学年同窓会

大阪天神祭で賑わう 7 月 25 日(土) 16 時より阪急梅田の 17 番街「シーファー」にて恒例の 48 回卒業学年同窓会を開きました。初参加や遠来のメンバーも加わり、参加者は静先生を含めて 33 名でした。

いつもは立食なのですが今回は着席ベースでスタート。寄る年波か座ってる方が楽だねの声がしきり。進行役の大塚さんよりこの 1 年では亡くなった仲間がいないことが報告され一同胸をなでおろすと共に、改めてこれまでに亡くなられた 12 名の仲間のご冥福を祈って、1 分間の黙祷を捧げました。(居谷、福井、岡上、森口、藤田、坂本、本木、鈴木、広沢、横内、若池、苗村の各氏)

続いて、緒方さんの「気のきいた挨拶を見つけて今日披露しようとしたらどこに書いてあったか忘れました。ともかく来年もこのように皆元気で集まろう！」のユーモア溢れる音頭により乾杯。クラス毎のテーブルでこの 1 年の出来事や今後の身の振り方などに話の花が咲きました。

そして今回もお招きした我らがアニキ「静先生」より「先日博多へ行った時、着任早々に皆さんと一緒に九州へ修学旅行に行った時のことを楽しく思い出したことや最近の甲陽が大学入試で頑張っている話題などをご披露戴き、続いて恒例のクラス単位の近況報告が A 組→B 組→C 組→D 組の順に行われました。

田舎暮らしを数年やったがやはり都会がいちばんとの X 君、時間に余裕ができて山登りにはまった Y 君、オペラを見て思わず涙したとの Z 君、くじに当たってイギリスの名門セントアンドリュースゴルフ場で楽しんだ P 君、まだまだ仕事にやる気満々の Q 君とみなそれぞれの生活をそれなりに楽しく報告し合いました。

そして「いくつかの同窓会に出ているが大体健康と孫の話に終始することが多いのに今日の学年同窓会では趣味や仕事や新しいことへの挑戦と他とは違った話が大半で大変参考になった」との Q 君の話がみんなの共通の感想だったように思います。

最後に全員写真を撮り、来年 7 月第 4 土曜日(23 日)の再会と 2 年後の卒業 50 年のホームカミングでの大集合を約してお開き。また来年元気で会いましょう。

追伸：48 回卒は 2 年後の 2017 年 8 月の最終土曜日に行われる全体同窓会に卒業 50 年の学年としてホームカミングにあたります。丁度学院創立 100 周年にもあたりますので是非大勢で参加したいと思っています。現在、メルアド把握は 100 名余りです。

学年同窓会のメール案内が来ない方は山崎又は池田まで連絡してください。

“山崎：kanamai2000@yahoo.co.jp、池田：sk.ikeda@smile.ocn.ne.jp”

なお、学年同窓会は毎年 7 月の第 4 土曜日 16 時から 17 番街の「シーファー」で行っています。

また、東京でも 2 年前から 4 月下旬にクラスを超えた同窓会を開いています。幹事は小島君・土岐君です。

2015 年 4 月 24 日 18:00 ～ 場所：東京駅丸の内北口のポールスター

参加：19名（秋山、井上、落合、片野、神谷、久保田、小島、小森、志岐、柴田、滝、樽見、中西、眞嶋、松木、松本、皆見、物集、土岐）

またゴルフ会も年2回（5月と10月）行っており、幹事は伊賀君です。

2015年4月29日（祭日） 場所は、いつもの三木かわカントリークラブ参加者は、土井名人を始め、夏住、山元、伊藤（雄二）、河内、塩見、下田、熊崎、八木、濱中、伊賀の11名でした。

今回の学年同窓会の出席者

A組：天田 池田 梅本 片野 夏住 藤原 棟広
米良 吉田

B組：臼井 緒方 木幡 竹山 丹家 山崎 米北

C組：龜山 池内 大塚 川端 木村 土井 中西 松尾 宗

D組：伊藤 沢田 下田 浜中 藤木 安間 真島
静先生 計 33名

（幹事：A池田、B山崎、C大塚、D伊賀）

文責：48回理事 池田 収一



54回・55回

対抗ゴルフコンペ開催

（平成27年11月15日 日曜日）

恒例の標記コンペが今年も「よみうりゴルフウエストコース」で開催されました。

参加者は、東京三菱UFJの森崎副頭取（54回）の初参加などもあり、54回生7名55回生5名の12名でした。

当日の天候は回復傾向でしたが、スタート直後から深い霧に覆われ、途中1時間余りのプレー中断がありました。その間、ティーグラウンド辺りでのショートアプローチの練習などで待ちました。その効果があった人、全く無かった人、様々なながら、午後からは青空が広がる絶好のゴルフ日和となり、年1回の対抗ゴルフを満喫できた一日でした。

競技の結果は、団体戦54回生平均グロス100.7、55回生102.6で54回生の勝利となり54回生の実力(?)を見せつけた結果となりました。個人の部では、ダブルペリアで関西電力常務国際部長の湯川君の優勝となりました。スコアはご本人の希望で掲載しません…。

来年も11月に開催予定ですので、54回生、55回生の皆さん奮ってご参加ください。尚、次回幹事は、54回生湯川英彦氏、55回生児玉潔氏となっておりますので、ご連絡ください。

<参加者>

54回生：竹内孝・吉井友実・森崎孝・畑善太・萩田真一郎・湯川英彦・林幸男

55回生：児玉潔・坂本和則・糟谷武則・大塚雄一・岡田清

（文責 54回吉井友実）



67回 同期会

私たち67同期会は、毎年お正月に同期会をしていますが、今年は卒業30周年という節目ということで、お世話になった5名の先生方にもご参加いただき、家族を含めて約40名の同期が集まりました。会場は大阪市福島区のホテル阪神で行いました。私たち同期は、5名の先生方と思い出を語り合い、お話を聞かせていただき、子供は子供同士で遊び、本当に楽しい時間を過ごしました。私たち67同期の同期会は、これからも、参加しやすい会にしていきたいと思います。

（梅谷幸弘 記）



サッカー部 OB会だより

2015年のサッカー部OB会は1月3日の初蹴会に始まり5月16日の東西交流戦・10月4日の第63回甲陽学院・灘校定期戦に集まり旧交を温めました。

初蹴会は前夜の寒波による積雪が有りコンディションが心配されたが朝から晴天に恵まれ甲陽高校グラウンドで現役組と若い大勢のOB諸君が澁刺と元気な姿を見せ気持ちの良い新年のスタートを切りました。

5月の東西交流戦は門田氏（56回）が前号記事の通り去年に続きお世話をしてくれ神奈川県川崎市の商船三井(株)グラウンドで同社と我校東西合流チームが親善試合を行いました。吉井・臼井（87回）野田（88回）の若手3氏の参加で良い試合が出来ました。其の後3時から町田駅近くで東西懇親会を行い楽しい時を過ごし次回の再

会を約束しました。

10 月の第 63 回甲陽学院対灘校定期戦は甲陽学院中学校のグラウンドで行いました。

中学生・高校生の試合では両校互角の接戦で父兄応援者から互いの攻防に溜息と歓声が交錯し熱が入っていました。年々父兄の応援が増えているように思え家族ぐるみの関心が高まってきているのが感じられました。

現役戦の後 OB 戦を行いました。両校とも現役の応援をもらっての試合でした。試合後 3 時からノボテル甲子園愛宕の間で両校 OB 会の親睦会を行いました。

次回も多数の方の出席を期待します。

【サッカー部 OB 会会長 南 聡 (43 回)】



サッカー部 初蹴り会

新春の恒例行事、初蹴り会は平成 28 年 1 月 3 日 10 時より甲陽学院高校グラウンドにて開催されました。

OB 会長 南 聡 氏 (43 回卒) の御挨拶の後、参加全員での記念撮影をしました。現役選手チーム対 OB チーム、OB 対 OB などの試合が多数おこなわれ、互いに親睦を深めることができました。本年はすばらしい好天にめぐまれ、暖かい日差しのもと、総勢約 80 名の御参加をいただき思う存分サッカーを楽しむことができました。来年もまた同様の日時にて開催を予定しておりますのでぜひ御参加くださいますようお願い申し上げます。

森本 (51 回) 記

第 3 回会員交流会 司馬遼太郎記念館を訪ね 国民作家の真髓を感じ 秋の味覚で交流を深める

甲陽学院の創立 100 年を見通して、同窓会の一層の活性化を図る一助にと、講演や見学による社会勉強を通して甲陽 OB が老いも若きも世代を超えて交流が図れればと始まった年 1 回の会員交流会。平成 27 年の第 3 回は秋晴れの 10 月 25 日 (日) に、「龍馬がゆく」「坂の上の雲」「街道をゆく」など多くの作品で国民の人気を得た司馬遼太郎氏が没して間もなく 20 年になる時、東大阪

市下小阪の司馬遼太郎記念館を訪ねました。

ちょうど時代を動かした吉田松陰と高杉晋作達の青春像を描いた作品「世に棲む日々」が原作の NHK の大河ドラマ「花燃ゆ」がクライマックスを迎えようとしている時でしたが、まず初めに眼を見張るのは最寄り駅の八戸ノ里から記念館まで歩いて約 7 分の道が立派な街灯とパイプメントで整備されており、まさに東大阪の文化拠点となっていること、門前では二百数十名に及ぶ司馬ファンのボランティアが交替で受付をされている事です。

司馬夫人の弟である元産経新聞記者の上村洋行記念館館長は私の産経新聞時代の先輩で、その夫人の上村元子副館長は同期入社という間柄のお蔭でしょうか、交流会一行は副館長の出迎えを受け庭や書斎を案内していただいてから、まず記念撮影を。

それからミーティングルームで上村洋行館長から平成 8 年 2 月 12 日司馬氏の没後、まず一つの柱として司馬遼太郎記念賞を創設し、命日を「菜の花忌」と命名し東西交互にシンポジウムを開き 19 回目を迎える事、そしてもう一つの柱である記念館に本のイメージ展示を提案した設計者・安藤忠雄氏の発想について、記念館からの情報発信として季刊誌「遼」を発行している事、そして雑木林の庭と司馬さんの書斎、記念館の蔵書の三つがあるこの小さな空間が文化ネットワークの接着剤になってくればとの思い、また居候をしていた学生時代の義兄司馬遼太郎とのエピソードやその人となりなど、約 40 分にわたりざっくばらんな話を聞くことが出来ました。

見学後、西村貞一同窓会長はじめ参加者 19 名は、上村夫妻のお進めで、女将さんが以前に司馬家のお手伝いをされていた地元・小阪の居酒屋「中津江」に集合、大サービスを受けた懇親会で秋の味覚を味わって大いに交流を深め、次回もよい企画をとの注文が出されました。

(会員交流委員会 45 回 揚野寛 記)



全員記念写真、上村副館長と



上村館長の話に熱心に聞く

第 17 回 甲陽学院同窓会 全体ゴルフコンペ (秋) 報告とお誘い 平成 27 年 11 月 1 日 (日) 開催

恒例の標記コンペが今秋も「武庫の台ゴルフコース」で開催されました。

参加者は15名と少な目でしたが、プレーはもちろん、懇親会も和気あいあいと盛り上がったように思えました。

優勝は、幹事の一人で医師でもあります60回の綿谷卓さんで、前回、前々回優勝の35回坪井弘光さんの三連覇を阻みました。しかし、坪井さんはラッキー7位で、今回も三田肉を持って帰られたのはさすがでした。2位の55回坂本和則さんは、グロス74というすばらしいスコアでベストグロスを獲得されました。3位は56回石渡秀二さんで、参加ごとにランクアップ中で次回の優勝候補であります。不肖幹事の54回吉井友実、グロス95と私的には、まずまずのスコアでしたが、悲しいかなハンディが9.6と少なく、きっちり14位ブービー賞で幹事役としての役目を果たせました。

本コンペは、甲陽学院OBに多い医師の方も参加しやすいようにと、毎回(春・秋の年2回)日曜日に開催しており、今回も4名の医師の方の参加があり、各人専門家としてOBへ健康アドバイスなどをしていただき、有意義な懇親会となりました。これからは健康寿命に係るお話がしていただけると楽しみにになりました。是非ゴルフを楽しんで、健康講義をご一緒に聞いてみてください。

次回は平成28年6月5日(日)の開催です。近時は、ご子息、お孫さんも甲陽学院というOBも多くなっており、ご家族での参加も歓迎しております。是非、親子で、爺孫で、参加してください。ルールも、ダブルペリア方式(上限カットなし)となっており、どなたにも優勝のチャンスがあるようになっております。ご参加お待ち申し上げます。

(参加者)(敬称略)

石川義明(元校長) 二宮一明(33回) 坪井弘光(35回)
西村善明(36回) 南 聡(43回) 西村貞一(45回)
山崎 浩(52回) 加登 豊(53回) 吉井友実(54回)
坂本和則(55回) 西村盾彦(55回) 石渡秀二(56回)
薄木成一郎(57回) 綿谷 卓(60回) 伊東桂一(67回)

(連絡先)

54回 吉井友実 E-mail: yoshii517@hcc6.bai.ne.jp
携帯電話 090-2385-1976

60回 中山裕雄 E-mail: hioro-na@d5.dion.ne.jp
(文責 54回 吉井友実)



宮 本 茂 先 生 逝 去



母校で長らく教鞭を取られた宮本茂先生が 2015 年 11 月 27 日逝去されました。宮本先生は甲陽学院の 17 回卒業生で、1949 年から 1986 年までの 37 年間、社会科教諭として主に地理の授業を担当され、進学指導などにも尽力されました。享年 95 歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

宮本茂先生の思い出 梶村慎吾(39回)

宮本茂先生が、昨年（2015 年）11 月 27 日にお亡くなりになった。その年の 1 月に先生からいただいた年賀状には「私も今年 95 歳になります」と書かれていた。私が甲陽学院高等学校を卒業したのは昭和 33（1958）年であり、以来 58 年が経過している。

私は、中学時代には宮本先生に人文地理の授業を受けた。高校時代には授業は受けなかったが、C 組の担任として、また学年全体の大学受験指導を受け持っておられたこともあり、種々御世話になった。人文地理の授業では、噛み砕いた表現で世界の国々の民情・風俗・政治・産業等々について説明され、ユーモアにあふれた話し方をされて人気があった。

先生のお宅には卒業後に何回か同級生の友人と共に伺ったことがある。先生の奥様は当時市立西宮高等学校で教鞭をとっておられ、お二人から教育者として日頃考えておられることなどをお聞かせいただいた。先生のお宅の庭には井戸があり、そこから湧きだす水は六甲山の下の方の貝殻層を通ってくる宮水で、西宮での日本酒造りに使われていると言っておられた。何十年か後に先生からお聞きしたところでは、先生のお宅は阪神淡路大震災で全壊したが、当日先生ご夫妻は旅行中だったため、命拾いされたということである。

東日本在住の同期（昭和 33 年卒、39 回生）の卒業生は、毎年「東京甲陽会」として同窓会を開いている。何年か前、毎年出席してくださっている物理担当であられた中島博先生、社会担当であられた中川経治先生のほか宮本先生も参加された。同窓会の翌日、小生の車で三先生と共に東京湾岸・アクアライン・木更津等をドライブし、甲陽時代の懐かしい思い出話に花を咲かせることができ幸いであった。

宮本茂先生は、相談事があれば親身になって考えてくださる、親切で優しい先生であった。心からご冥福をお祈りいたします。

宮本先生の思い出 梶田慎治(39回)

Pon（先生）！ この前に接頭語を付けて呼ぶのがフォ

ーマルな呼び名でしたが…。

小生は先生のちょっとエロっぽい授業が楽しみでした。その影響で（エロっぽい影響ではありません）大学入試の選択科目も人文地理を選びました。

夏休みには先生の呼びかけで、地理専攻の仲間と国土地理院の 5 万分の一地形図をベースに、今で言う所の 3D 地形図を作った記憶が有ります。地形図の等高線に沿って彫刻刀でボール紙を切り取り、それを貼り合わせて立体地形図を作るのですが、切れなくなった彫刻刀に力を入れてガリガリ！ 指の皮が剥けて大変でした。後年この 3D 地形図が完成して、それをガラスケースに入れて学校で展示している、と新聞で読んだ事が有ります（既に家を出ていましたから、何故そんな地域版ニュースを知っているのか不思議です。或は心のどこかに残っていて夢で見たのかも？）

数十年経って我々 39 回生の東京学年同窓会にも何度かお越し頂きました。ホリエモンがフジテレビ買収を仕掛けていた年には、夜までの空き時間を利用して、お台場のフジテレビ球体展望室（写真）に案内させて頂いたのも懐かしい思い出です。

卒業して半世紀、暖かく我々を見守り続けて下さった先生。

ホンマに「ビックリ（Pon）や！」。長い間本当に有難う御座いました。ご冥福をお祈り致します。



宮本茂先生を偲んで 川淵秀和(44回)



2013.8.31 甲陽同窓会、44 回生卒業 50 周年、古稀の会

我々 44 回生の D 組担任であった宮本先生が亡くなったという訃報を受けたのは 11 月 20 日の事でした。私事になりますが、私の母が 10 月に 95 歳で亡くなりましたので、喪中葉書をお出ししました。その数日後に範子奥様から「主人は骨折して入院中です」というお葉書を頂き心配していた矢先の事でした。余りにも突然でしたので驚きました。同じ 95 歳でした。訃報の連絡を仲間

の44回生にしたところ多くの仲間から先生へのお悔やみの言葉と共に感謝の言葉、エピソードを送ってくれましたので、以下にご報告いたします。最も印象的だったのは、2年前の卒後50周年時に実施した”44回生古稀の会”にお出でいただき、ご挨拶を頂いた時のことです。「44回生は本当にいう事を聞かない暴れん坊集団だった。職員会議で3組のままだと指導しきれないので、クラス人数を減らし4組にしようとなった。しかし、44回生が最も印象に残っているし、活躍した学年だと思っています。」というD組が出来た理由と共に有り難いお褒めのお言葉を頂きました。今更ながら、先生の温かい心遣いを感じました。当時、先生は新しくできたD組が存在しているのを忘れて、身体検査の時にクラス全員が上半身裸で教室で待機しているのに、一向に呼びに来られず、生徒に寒い思いをさせたことを覚えておられますか。「あっ!忘れていた」という一言で謝られましたね。いつの同窓会にも出席されており、数十年経ったのに「XX君元気ですか」と名前を呼んでいただき、一同感激したものでした。先生のことを「宮ポン」とか「ポンさん」とか気安に失礼なことを言う不埒な者もいましたが、私は全く呼んだことはありませんよ。私にとってはやさしい先生で且つ相談にものっていただける誠実な先生でした。先生が会報に書かれた随想文を読ませていただきました。先生が、甲陽学院をこんなにも愛されていたのかと、改めて思い至りました。ご指導いただきましたこと、深く感謝しております。私は死ぬまで心の中で素晴らしい先生の中の先生と思い続けます。人文地理

を教わったが、飄々とした面白い先生でした。

目をぱちくりさせて、陽気で、人間味、愛嬌があり、好きな先生でした。我々を育てていただいたことに感謝申し上げます。これだけ教え子に思いを寄せた先生も少ないのではないかと思います。授業時によく「家内は…」と範子奥様のことをお話しされていましたね。奥様思いの先生でした。今思えば、真面目な顔でフォッサマグナ（亀裂帯：東日本と西日本の間）のお話をされちょっとニヤッとされたのも覚えています。ポイントを黒板に書いて頂いたので、感謝している友も多いです。先生 安らかに眠りください。先生 ありがとうございます。（喜多・稲垣・秋山・詠田・鵜野・荒木その他大勢からメッセージがありました）



挨拶中の宮本先生
(最後の授業でした)

伴 野 凡 夫 先 生 逝 去



母校で1974年から1993年まで理科の教諭として主に化学の授業を担当された伴野凡夫先生が2015年7月5日逝去されました。享年87歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

伴野先生の思い出 重久俊夫(60回)

昨年七月、化学の伴野凡夫先生が逝去されたとの報に接し、往時を回想して深い感慨を覚えます。私が先生に初めてお会いしたのは、甲陽高校の入試に合格し、新入生のための補習を春休みに受講した時のことです。英・数・国の先生方が個性的なスタイルの授業で合格早々のわれわれを驚かせたのに対し、伴野先生の授業はまさに“武骨”そのものでした。しかし、しわがれ声の早口で、叩きつけるような口調の講義は、素朴な中にも謹厳さがあり、今思えば、学問そのものを飾り気なく伝えようと

する古き良き時代の遺風だったといえます。文系志望の私は化学に関しては苦手なままで卒業しましたが、高校三年間の化学の大部分を担当していただき、また、二・三年次のクラス担当もしていただきました。第一回目の共通一次試験（現在のセンター試験）を受験した直後に、先生は急病で入院されました。ブルーボックスの本が積み上げてある病室に皆でお見舞いに行き、しばらくお話をした時には、先生との距離がことさらに近く感じられました。卒業アルバムのはなむけの言葉には「信用第一」と書いて下さいました。一見、銀行の標語のようですが、先生の人柄がまことに簡明に表された言葉だと思います。

先生のお名前は「ともの・ただお」ですが、生徒も他の先生方も「ばんの・ほんぶ」と音読みで呼んでいたようで、「万能ポンプ」というあだ名もありました。生意気盛りの高校生はよく先生をひやかしたのですが、いつも飄々と受け流しておられました。それでいて、高三の音展では合唱練習に無気力なわれわれを叱咤激励されましたし、修学旅行では「気分が悪い」といった生徒に黙って二日酔いの薬を渡されたという伝説もあります。そういうお人柄は、今の時代には希有なものかも知れません。謹んでご冥福をお祈りする次第です。

訃報

(平成28年1月31日現在)

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。
謹んで哀悼の意を表します。

中村 佳央氏 (34回)	16年1月3日
藤井 正一氏 (33回)	13年7月4日
平井 成一氏 (33回)	14年10月13日
辻井 淳氏 (31回)	14年6月24日
逸見 博男氏 (29回)	15年12月29日
森本 吉有氏 (29回)	15年7月8日
福井 正也氏 (28・30回)	15年7月19日
茶谷 保氏 (27回)	13年8月4日
松本 和造氏 (25回)	14年12月19日
高野 昭二氏 (25回)	14年3月17日
宮川 順夫氏 (24回)	15年1月3日
辰馬 慎吾氏 (23回)	15年4月20日
小栗栖光雄氏 (23回)	13年5月18日
宇和 完氏 (23回)	15年6月3日
西本規矩二氏 (22回)	14年11月25日
酒井 新介氏 (22回)	15年7月21日
木村 庸吉氏 (21回)	12年12月7日
弓場豊太郎氏 (19回)	09年11月30日
永山 精一氏 (19回)	13年3月20日
二宮 信也氏 (18回)	
宮本 茂氏 (17回)	15年11月26日
松尾真佐直氏 (11回)	06年3月9日

森 達哉氏 (34回)	14年1月2日
梅宮 資充氏 (35回)	15年6月9日
神戸 睦夫氏 (35回)	15年7月6日
北風 哲氏 (35回)	15年7月23日
佐藤 敏武氏 (38回)	15年8月13日
水垣 健氏 (38回)	15年12月2日
矢田 勇治氏 (38回)	11年11月26日
寺岡 寛氏 (39回)	15年9月8日
中井弘一郎氏 (39回)	15年6月27日
小味淵博雄氏 (42回)	15年4月4日
新開 隆弘氏 (44回)	14年3月9日
大森 達正氏 (46回)	15年5月5日
川名 英彦氏 (47回)	15年8月
森元 通裕氏 (49回)	14年6月2日
三戸 俊英氏 (51回)	15年9月12日
澤村 博史氏 (53回)	15年5月14日
塚田 滉氏 (91回)	16年1月22日
米谷 久夫氏 (高商1)	15年5月30日
錦美 雅夫氏 (高商1)	16年1月18日
柏 喜好氏 (高商2)	13年12月15日
東條 清氏 (高商2)	15年3月4日
矢倉 達夫氏 (高商2)	13年12月9日
酒井 新介氏 (高商4)	15年7月21日
中村 次男氏 (高商4)	15年6月17日
山村喜一郎氏 (工専2)	10年9月22日
辰馬 慎吾氏 (工専1)	15年4月20日
田中宗三郎氏 (工専2)	15年5月14日

訃報 岩尾政利 先生

1968年から1992年まで英語科教諭として勤められた岩尾政利先生が
2016年1月28日逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

訃報 渥美憲一 先生

1990年から2010年まで英語科教諭として勤められた渥美憲一先生が
2016年1月26日逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

岩尾政利先生、渥美憲一先生の追悼文を次号甲陽だより(第94号)に掲載の予定です。

お知らせ

本年4月にお届けする名簿調査郵便物の中にピンク色の〈お知らせ〉が同封されている方は、調査はがきの返信がない場合は名簿に住所等が掲載されませんので、ご記入のうえ返信をお願い致します。

お知らせ

名簿の編集作業のなかで、新たに物故者が判明いたしました。謹んでその方々のお名前を皆様にお知らせします。万一間違い等がありましたら、同窓会事務局まで一報願います。

高亀 馨氏 (23回)	森 章氏 (44回)
下山 三郎氏 (23回)	藤田 徹雄氏 (48回)
高木 史郎氏 (23回)	桑田 良樹氏 (51回)
八木 謙治氏 (23回)	白石 俊秀氏 (51回)
吉井 良峯氏 (23回)	高宮 浩氏 (51回)
鈴木 孝氏 (32回)	平井 保年氏 (54回)
奥村 崇氏 (32回)	安部 毅氏 (56回)
西川 貞雄氏 (32回)	舟橋 宏倍氏 (59回)
坪井 淳一氏 (32回)	岸本 耕一氏 (67回)
吉村 和雄氏 (33回)	田淵 孝治氏 (74回)
谷山 公一氏 (34回)	高木 史郎氏 (工専1)
上田 堯氏 (37回)	
上田 弘嗣氏 (37回)	
三浦 幸雄氏 (44回)	
高橋 正克氏 (44回)	
河原林則良氏 (44回)	
細谷 徹氏 (44回)	
井上 久弘氏 (44回)	
青木 淳一氏 (44回)	
村田 幸彦氏 (42回)	
坂本 治氏 (40回)	
大須賀誠剛氏 (40回)	
生駒 豊里氏 (37回)	
横内 滋氏 (37回)	
溝淵 幸雄氏 (37回)	
荻口 峯明氏 (37回)	

告 知 板

☆ 第五回関西甲陽ネット交流会のご案内 ☆

日 時：平成28年4月10日(日)
午後3時30分：お話し(山下正昭校長)
午後5時：懇親会
場 所：大阪梅田(予定)
詳細確認・お申し込みはホームページにて。
<http://kansai-koyo.net/>

☆ 甲陽学院カレンダーの販売 ☆



母校の四季を写した美しいカレンダーを1部500円で販売しております。(2016年用・月めくり)表紙の写真はまもなく建て替え工事が始まる中学校の講堂です。購入ご希望の方は中学校または高等学校までお申し込みください。郵送も可能です。詳しくは甲陽学院のホームページをご覧ください。

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した97回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、追って振込用紙同封の文書にてご案内いたします。また、これに伴い、卒業後7年以内の方(卒業時に7年分の年会費を前納)でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP2の表をご覧ください。

☆ 「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

- * 次号・第94号は、平成28年7月末頃に発行を予定しています。
- * 「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
- * 原稿の締切日は、平成28年6月10日です。

☆ 甲陽学院同窓会 第4回 会員交流会のご案内 ☆

「大飯原子力発電所 再稼働に向けての取り組みを知り、地元出身作家・水上勉氏の若州一滴文庫を訪ねる」

平素は同窓会活動にご協力をいただき有難うございます。甲陽学院創立100周年に向けて、同窓会活動の一層の活性化のため、世代を超えてタイムリーにきめ細かい交流を図る場として設けた会員交流会。第4回目の今年は、

休止中。九州、大飯原子力発電所、再稼働に向けての取り組みを知り、地元出身作家・水上勉氏の若州一滴文庫を訪ねる。この交流会は、甲陽学院同窓会第4回会員交流会として設けられ、毎年10月28日(金)に開催する旨、ご案内を差し上げましたが、今般、検討の結果取りやめることといたしました。

皆さまにはご迷惑をおかけすることになり、誠に申し訳ございません。お詫び申し上げます。ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成28年4月

甲陽学院同窓会

会長 西村 貞一

大飯原子力発電所(福井県大飯郡おおい町大島40子堤)
魚料理で人気の「こすえ旅館」(福井県大飯郡おおい町大島28-6・TEL0770-77-0441)
水上文学と竹人形文楽の里「若州一滴文庫」(おおい町岡田33-2-1・TEL0770-77-2445)を訪ねる
会費 3,000円 当日申し受けます
定員 40名(先着申し込み順)
申込先 甲陽学院同窓会事務局「会員交流 見学会」係宛 葉書・FAX・メールのいずれかにて
〒662-0096 西宮市角石町3番138号
FAX: 0798-71-4890 メール: fvgpl630@mb.infoweb.ne.jp
氏名、年齢、卒年、回生、住所、電話を明記してお申し込みください。

同窓会名簿発行に関するお知らせとお願い

甲陽学院創立 100 周年を記念して、2017 年 2 月に同窓会名簿を発行することになりました。つきましては同窓会員の皆様に下記のお知らせとお願いをさせていただきます。

名簿記載事項調査について

従来、同窓会で把握している住所について、その内容確認ならびに住所不明者調査（予備調査）を各学年の理事あるいは委員の皆様にお願ひし、実施いたしました。その内容に基づき、名簿記載事項調査を実施いたします。2016 年 4 月上旬までに皆様のご住所に A4 サイズの郵便（ゆうメール）が届きます。

この郵便物は同窓会発行のお知らせが記載されるとともに、その一部を切り取り「調査はがき」として返信できます。このはがきには、同窓会事務局が把握している皆様の氏名や住所などがあらかじめ印刷されています。印刷内容を確認し、必要箇所を加筆・訂正の上、ご返信下さるようお願いいたします。訂正事項がない場合も返送をお願いいたします。住所や勤務先などの名簿掲載を希望されない方は、その項目に「不掲載」とお書きください。なお同様の手続きがインターネットでも可能です。また、今回の「調査はがき」で、名簿予約や広告掲載の申し込みもできるようになっておりますので、お申し込みのほどよろしくお願いいたします。

この調査の結果をもとに名簿記載情報を更新し、「甲陽だより」の発送により確認を実施します。最終的に「調査はがき」返信のない方には名簿発行委託先である株式会社サルトから確認の電話を差し上げますのでよろしくお願いいたします。



お届けする郵便物

賛助広告掲載・賛助金ご協力のお願い

このたびの会員名簿発行にあたり賛助広告を募集するとともに賛助金協力を募ります。皆様のご協力をお願いいたします。ご協力いただいた方には名簿 1 冊を贈呈させていただきます。

賛助広告掲載料金（税込）

カラー	1 頁	(216,000 円)
モノクロ	1 頁	(108,000 円)
モノクロ	1/2 頁	(54,000 円)
モノクロ	1/4 頁	(32,400 円)
名刺広告	1/10 頁	(19,000 円)
賛助金	1 口	(10,000 円)

賛助広告は以下のようなみなさんで掲載できます。

例えば… 同窓生が在籍している会社・事務所の賛助広告
 学年の同窓生有志のみなさんでの賛助広告
 クラブ活動と一緒にしたメンバーでの賛助広告
 個人での賛助広告 など

4 月上旬到着予定の名簿記載事項調査の「調査はがき」返信の際、お申し込みをお願いいたします。後日賛助広告案内状を送らせていただきます。下記連絡先の株式会社サルトにお申込みいただくことも可能です。皆様のご協力をお願いいたします。

【連絡先】 株式会社サルト（委託先）	: 0120-951-203（専用電話 / 通話料無料）
甲陽学院同窓会事務局	: 0798-71-4888（月・水・木・金 10:00 ~ 16:00）
甲陽学院 箱田教諭（同窓会副会長）	: 0798-73-3011（上記時間帯以外）